第１分科会
１
熊本県医師会

熊本県における学校保健の現状
～県下全学校及び学校医に実施した学校保健アンケート結果よりみた意識の違い～

熊本県医師会　樽美　光一

熊本県医師会　村上　幹彦
前田　利爲
原　敬三

Ⅰ．諸言

子ども達を取り巻く環境は、ますます多種多様化しており、様々な課題が山積している。学校保健・安全を考える上で、学校と学校医との連携は不可欠であるが、これらの問題に関して両者がどのような認識を持ち、活動しているのか実情を知るためにアンケート調査を実施したので報告する。

Ⅱ．調査方法

平成２３年３月に熊本県内の全小・中・高・特別支援学校（国立・私立含）７２２校とその学校医７７４名にアンケート調査票を送付し、無記名で回答してもらった。尚、複数回答がある場合はそれぞれをカウントした。

Ⅲ．調査内容及び結果

回答率は学校６１０校（８４．５％）、学校医３９５名（５１．０％）であった。

調査項目は、健康相談・禁煙（防煙）対策・感染症・性教育・アレルギー疾患・メンタルヘルス・AEDについても行った。今回は学校と学校医双方から回答があって、意識の違いを感じた下記の項目についてのみ報告する。

１．学校保健委員会について（表１）

調査結果

1）学校保健委員会

（学校医）
・出席している：29%
（毎回、時々）
・時間がとれない（診療時間中）
→　夜の開催を望む
・学校からの要請がない

（学校）
・実施回数
0回：19%、1～2回：71%
・実施している所は、ＰＴＡ
行政・町内会役員まで含めて
実施しているところが多い
・校医の協力が得られない
・日程調整が難しい

テーマ
健康診断結果、生活習慣、性教育、感染症、歯科保健など

２．健康診断

１）内科健診時の脱衣および眼科・耳鼻科校医が配置されていない学校の眼科・耳鼻科検診について（表２）

2）健康診断

①内科健診時の脱衣について

（学校医）		（学校）	
・脱衣していない		・脱衣していない	
男子	… 11%	男子	… 30%
女子（低学年）	… 32%	女子（低学年）	… 53%
女子（高学年）	… 61%	女子（高学年）	… 76%

（理由）プライバシーの保護、時間がかかる、はずかしがる

②眼科・耳鼻科校医が配置されていない学校の
眼科・耳鼻科検診について

1）実施していない　…　28%
2）内科校医が実施　…　32%
3）市町村が依頼した眼科・耳鼻科医に依頼…33%

小・中6年間、眼科・耳鼻科検診を受けずに卒業していく、
1年生の時だけでも実施してほしい

２）脊柱側弯症検診および熊本県学校検尿マニュアルについて（表３）

③脊柱側弯症検診について

（学校医）
・実施していない … 8%
・要請が無い
・専門外で判断が難しい
・検診の標準化をしてほしい

（学校）
・実施していない … 20%
・お願いしているが診てもらえない
・学校医が専門でない

④熊本県学校検尿マニュアルについて

（学校医）
・知らない … 42%
・知っていると回答した学校医の56%が利用

（学校）
・知らない … 11%
・知っていると回答した学校の83%が利用
・養護教諭がいないため知らなかった
・地域のマニュアルを利用

３）その他の健康診断

①運動器検診および小児生活習慣病検診について（表４）

⑤その他の健康診断について

1) 運動器検診

（学校医）
・実施した方がよい … 84%
・変化があれば、整形外科医に相談するよう指導すべき
・スポーツ指導者の教育が必要

（学校）
・運動器検診を知らない … 70%
・知っていると答えた学校の80%が実施した方がよい
・個人の対応でやっていけるのではないか

2) 小児生活習慣病検診

（学校医）
・実施した方がよい … 87%
・本来、親が管理すべきこと
・定期健康診断で可能性がある者は専門医へ

（学校）
・実施した方がよい … 82%
・学校での採血はそぐわない
・生活習慣を見直すためのアンケート形式でよい

②アレルギー疾患およびメンタルヘルスについて（表５）

・アレルギー疾患について

（学校医）
・学校生活管理指導表（アレルギー疾患用）知っている … 35%

（学校）
・学校生活管理指導表（アレルギー疾患用）知っている … 96%
・管理指導表の提出 知っていると答えた学校の16%
・エピペンの使用 小学校1校（問題はなかった）

・メンタルヘルスについて
・学校医への相談 … 10%程度
・保護者が主治医に直接相談
・ＳＣ、ＳＳＷ、専門医療機関、心の健康アドバイザー制度などを利用
・登校拒否、発達障害、摂食障害、情緒不安定、うつ状態など

３．学校危機管理対策および学校保健安全計画について （表６）

・学校危機管理対策について

（学校医）
・学校では行なわれていると思うがよくわからない
・コンセプトは持っているが、学校からの要請がない

（学校）
・マニュアルの作成
・不審者、火災、地震対策・訓練
・校舎内外の点検
・通学路の安全確認
・心肺蘇生・ＡＥＤの使用訓練
・来校者の名簿記入
・ＡＥＤの設置（100%）2台

・学校保健安全計画について

（学校医）
・知らない … 80%
・殆どの学校医が立案に参加していない

（学校）
・学校医の意見は反映されていない … 78%

Ⅳ．学校医からの意見 （表７）

学校医からの意見

・学校側の熱意次第です
・もっと遠慮なく利用してほしい（もっと気軽に相談を）
・学校からの要望がないと、当方からは行動を起こしにくい
・学校保健委員会に校医が積極的に参加し、生徒や職員の健康相談に応じられる体制作りが必要
・重要な社会貢献の機会であり、出来るだけ積極的に関っていきたいので、学校保健委員会などは、出来れば夜にやって欲しい
・生徒の指導は勿論、親・教職員の教育が必要

Ⅴ．学校からの意見 （表８）

学校からの意見

（学校医について）
・協力的である … 70%
・どちらでもない … 27%
・協力的でない … 2%

・気軽に相談できる体制を作ってほしい、学校保健委員会に積極的に参加してアドバイスしてほしい
・講話など依頼したいが、忙しそうなので依頼しにくい
・学校医にも退職年齢があってもいいのではないか（非常に気を使う）
・これからも、協力・連携し取り組んでいきたい
・本校の校医さんはどの校医さんも、大変、好意的で協力的です。いつもありがたく思っている。

Ⅵ. まとめ

本県においては、学校保健行政・学校・三師会・その他の学校保健関係者が熱心に学校保健活動に取り組んでおり、大きな成果をあげている。しかし、今回の調査結果から、学校側にも学校医側にも改善すべき問題がいろいろ潜んでいることが分かった。お互いがもっと気軽に話し合える場の構築が是非必要である。その為には、県教育委員会等の学校保健行政の力も不可欠である。県医師会も、学校保健・学校安全に関する問題は、最重要課題として位置付けており、学校医には任務の重要性を再認識してもらうなど、改善のための努力を続けていきたいと思っている。